

LINN LP-12 の再構成(29)

—EMI DS529 での試聴—

1. 始めに

前報(28)の TANNOY Autograph MINI に替えて EMI DS529 で、LINN LP-12 の軸受けを新規のカルーセルキットに交換することを受けて、その効果を確認しました。

2. LINN LP-12 の再構成の実施内容と試聴方法

改造の実施内容は、前報(23)で述べたとおりです。

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力します。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Rogers Cadett III→EMI DS529

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

Rogers Cadett III と EMI DS529 の組み合わせで、最後に聴いた経過は、サブシステムの再構成(5)で報告しています。その後は、前報(24)記載のとおり、新規フォノイコライザーの導入以降のような改造を行っています。

使用した盤は、前報(24)でも使用した次のものです。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

CBS SONY 25AG 407

津軽三味線

高橋竹山

Riverside Rlp9407

Bags meets Wes

3. LINN LP-12 の再構成後の試聴結果

Deutsche Grammophon483-6927/6928/6929 の Bach の Sonatas & Partitas は、旧型のスピーカーをヴィンテージアンプで駆動していますが、これまでになく艶っぽく朗々と聴かせてくれます。

ドイツグラモフォン **MG9551** の選帝侯のソナタは、高域は艶っぽく、中低域も厚みのある音で、サイズに似合わないスケール感も出ています。

LONDON KLJC-9180/9184 のワルキューレは、旧型のスピーカーですが、解像度もあり、ボーカルも艶っぽく、スピーカーのサイズに似合わないスケール感もあります。

CBS SONY 25AG 407 の高橋竹山は、古いタイプのコーン型のツイーターがついている **EMI DS529** ですが、音の立ち上がりにも不満はなく、太掉らしい図太い音もでています。

Riverside Rlp9407 の **Bags meets Wes** は、オーソドックスで地味な鳴り方をする **EMI DS529** ですが、ジャズらしく弾んだ演奏を聴かせてくれます。

4. まとめ

新規フォノイコライザーの導入からカラーセルキットへの更新までの効果を **EMI DS529** で確認しました。

以上